



androidtv



取扱説明書

Home Projector

EH-LS300W

EH-LS300B

マニュアル中の表示の意味 4

プロジェクターを使用する前に 7

プロジェクターの各部名称と働き	8
プロジェクターの各部名称 - 前面/上面	8
プロジェクターの各部名称 - 上面/側面	9
プロジェクターの各部名称 - 背面	10
プロジェクターの各部名称 - 底面	10
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル	11
プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン	11

プロジェクターを準備する 13

プロジェクターの設置	14
設置時のご注意	15
プロジェクターを接続する	16
ビデオ機器を接続する	16
外部オーディオ機器を接続する	16
ARC対応AVアンプを接続する	17
リモコンに電池を取り付ける	18
リモコンを操作する	19
Android TV™を設定する	20
Android TV™ホーム画面	21

プロジェクターの基本機能を使用する 22

プロジェクターの電源を入れる	23
プロジェクターの電源を切る	24
映像の形状を補正する	25
8点補正を使用して映像のゆがみを補正する	25

ピントを調整する	26
投写映像を切り替える	27
映像のアスペクト比を設定する	28
映像のアスペクト比を切り替える	28
アスペクトモードの種類	29
映像を最適化する（カラーモード）	30
カラーモードを変更する	30
カラーモードの種類	31
映像の光量を調整する	32
映像を最適化する（詳細設定）	33
光源の明るさを設定する	34
音量ボタンで音量を調整する	35
サウンドを調整する（サウンドモード）	36
サウンドモードの種類	37
サウンドの詳細設定	37

プロジェクターの便利な機能 39

プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する	40
Bluetooth仕様	40
映像を一時的に遮断する	42
HDMI CEC機能	43
HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する	43
ファームウェアを更新する	45
プロジェクターを初期化する	46

メニューの操作 47

プロジェクター設定を操作する	48
----------------------	----

画質メニュー	49
サウンドメニュー	51
表示メニュー	53
設定メニュー	54
情報表示メニュー	55

プロジェクターをメンテナンスする 56

プロジェクターのメンテナンス	57
投写窓を清掃する	58
センサーを清掃する	59
本機を清掃する	60
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする	61
エアフィルターを清掃する	61
エアフィルターを交換する	62

困ったときに 64

トラブルの対処方法	65
インジケータの見方	66
電源に関するトラブル	68
電源が入らない	68
予期せず電源が切れる	68
映像に関するトラブル	69
映像が表示されない	69
映像がゆがむ	69
映像がぼやける	70
映像の一部が表示されない	70
映像にノイズが入る、乱れる	70
映像の明るさや色合いが違う	71

音声に関するトラブル	72
音が出ない、小さい	72
Bluetoothスピーカーモードでのトラブル	72
リモコン操作に関するトラブル	74
HDMI CECに関するトラブル	75
Wi-Fiネットワークに関するトラブル	76
Android TV™に関するトラブル	77

付録 78

オプション・消耗品一覧	79
消耗品	79
スクリーンサイズと投写距離	80
対応解像度	82
本機仕様	83
接続端子	83
外形寸法図	84
安全規格対応シンボルマークと説明	85
レーザー製品を安全にお使いいただくために	87
レーザー警告ラベル	87
用語解説	88
一般のご注意	89
使用限定について	89
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意	89
瞬低（瞬時電圧低下）基準について	89
JIS C 61000-3-2適合品	89
商標について	89
ご注意	90
著作権について	90

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

 注意	注意して取り扱わないと、本製品の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
 ボタン	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：  ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [画質・映像] メニューを選択する  [画質・映像] > [色設定]
	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

マニュアルの使い方と情報の探し方

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

キーワードで検索する

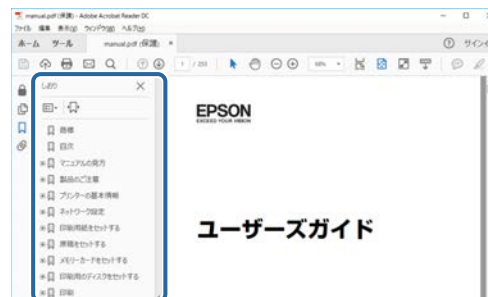
〔編集〕メニューの〔高度な検索〕をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、〔検索〕をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。



しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。〔+〕または〔>〕をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows : [Alt] キーを押したまま [←] キーを押します。
- Mac OS : commandキーを押したまま [←] キーを押します。



必要なページだけ印刷する

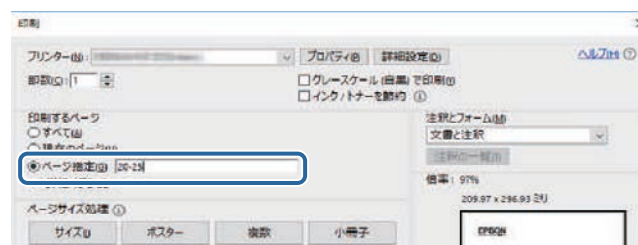
紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。［ファイル］メニューの［印刷］をクリックして、［印刷するページ］の［ページ指定］で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。

例：20-25

- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。

例：5,10,15



プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.8](#)

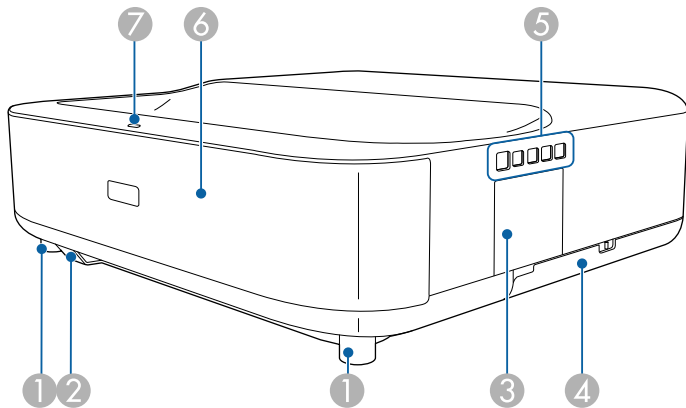
本機の各部名称とその働きについて説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 [p.8](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 上面/側面」 [p.9](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 背面」 [p.10](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 底面」 [p.10](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 [p.11](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン」 [p.11](#)

名称		働き
④	エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
⑤	操作パネル	本機の操作をします。
⑥	スピーカー	音声を出力します。
⑦	ステータスインジケータ	本機の状態を表示します。

プロジェクターの各部名称 - 前面/上面

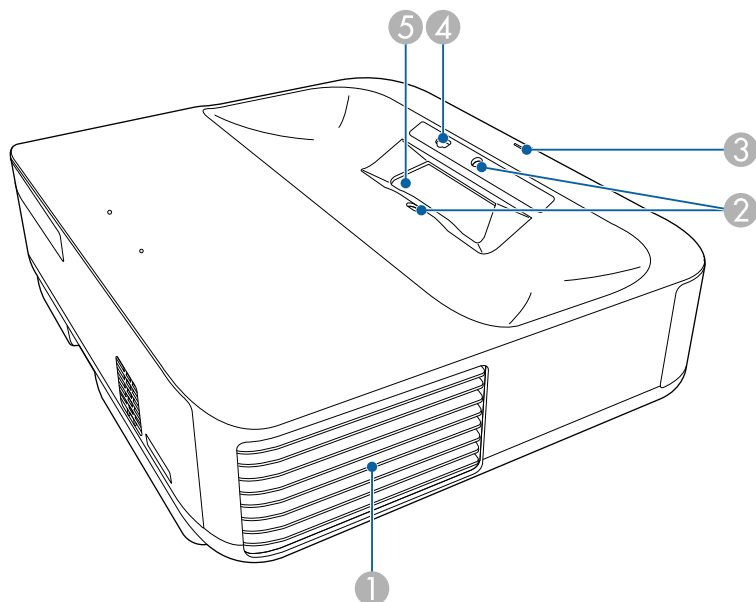


▶ 関連項目

- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.61](#)
- ・「リモコンを操作する」 [p.19](#)
- ・「インジケータの見方」 [p.66](#)
- ・「ピントを調整する」 [p.26](#)

名称		働き
①	フロントフット	机上に設置したとき、フットを伸縮させて、映像の左右の傾きを調整します。
②	リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
③	フォーカスレバーカバー	フォーカスレバーを操作するときに開閉します。

プロジェクターの各部名称 - 上面/側面



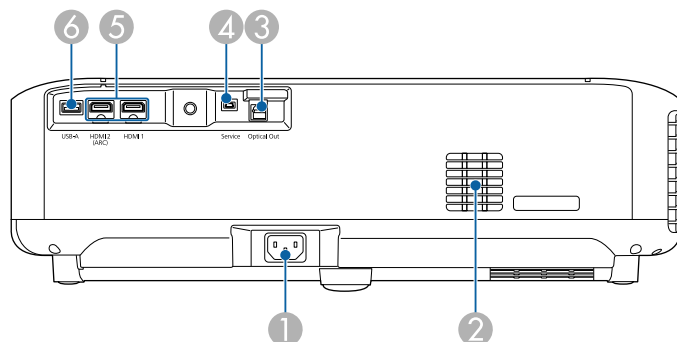
名称	働き
① 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
② 障害物検知センサー	投写窓付近の障害物を検知します。
③ ステータスインジケータ	本機の状態を表示します。

名称	働き
④ モーションセンサー	投写窓付近の動作を検知して、安全のため光源の明るさを落とします。 📝 ・ センサーの検知範囲は、使用環境の温度によって変わることがあります。 ・ ガラスなどの透明な素材越しでは、センサーが動作しないことがあります。
⑤ 投写窓	内部の投写レンズから映像を投写します。 ⚠ 警告 ・ 投写中は投写窓をのぞかないでください。 ・ 投写窓にものを置いたり、手を近づけたりしないでください。投写光が集束するため高温になり、やけどや変形、火災の原因になります。

▶ 関連項目

- ・ 「インジケータの見方」 [p.66](#)
- ・ 「センサーを清掃する」 [p.59](#)

プロジェクターの各部名称 - 背面



名称	働き
① 電源端子	電源コードを接続します。
② 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
③ Optical Out端子	光デジタルケーブルを接続して、外部のオーディオ機器に音声を出力します。
④ Service端子	通常は使用しません。
⑤ HDMI1端子 HDMI2 (ARC)端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピュータの信号を入力します。本機はHDCP 2.3に対応しています。 HDMI2端子はHDMI ARCに対応しています。
⑥ USB-A端子	ウェブカメラ、外付けハードディスク、キーボードなどの市販のUSB機器を接続します。 市販のRJ45アダプターを接続すると、有線LANに接続できます。

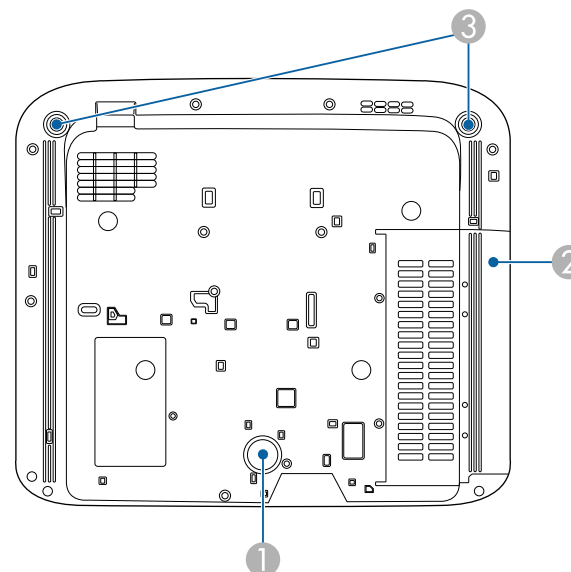


すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。

関連項目

- ・「ビデオ機器を接続する」 [p.16](#)
- ・「ARC対応AVアンプを接続する」 [p.17](#)
- ・「外部オーディオ機器を接続する」 [p.16](#)

プロジェクターの各部名称 - 底面

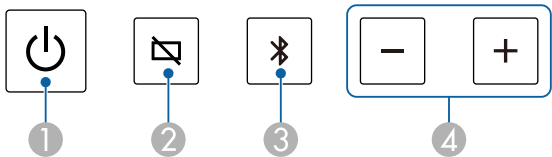


名称	働き
① リアフット	机上に設置したとき、本体を支えます。
② 吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
③ フロントフット	机上に設置したとき、フットを伸縮させて、映像の左右の傾きを調整します。

▶ 関連項目

- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.61](#)

プロジェクターの各部名称 - 操作パネル

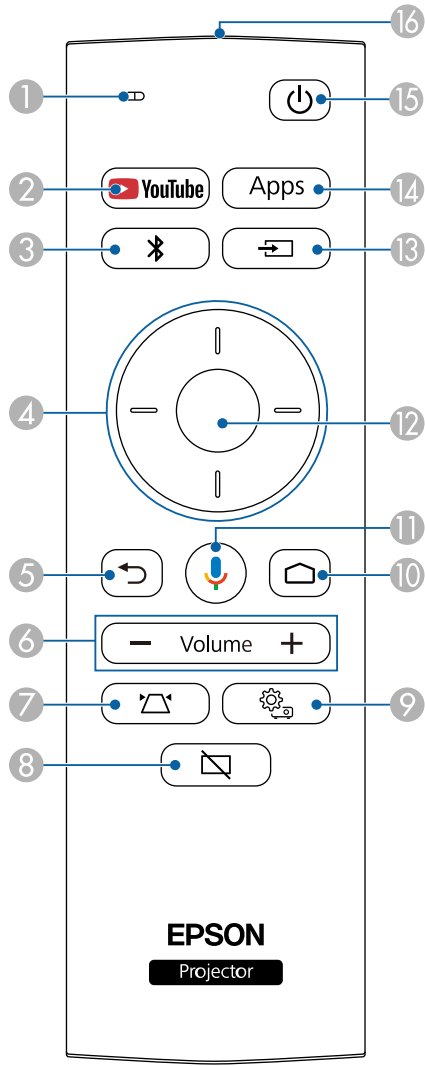


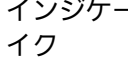
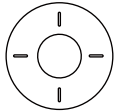
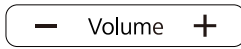
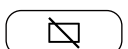
名称	働き
① 電源ボタン	本機の電源をオン/オフします。
② ブランクボタン	映像を一時的に遮断します。
③ Bluetoothスピーカーモードボタン	Bluetoothスピーカーモードに切り替えます。
④ 音量上げ/下げボタン	スピーカーの音量を調整します。

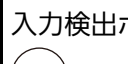
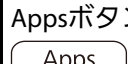
▶ 関連項目

- ・「インジケータの見方」 [p.66](#)
- ・「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.40](#)

プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン



名称	働き
① インジケーター/マイク 	リモコン信号が出力されているときに点灯します。 マイクボタンが押されたときに、ここで音声を検出します。
② YouTubeボタン 	YouTubeアプリを開きます。
③ Bluetoothスピーカーモードボタン 	Bluetoothスピーカーモードに切り替えます。
④ 上下左右ボタン 	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
⑤ 戻るボタン 	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
⑥ 音量上げ/下げボタン 	スピーカーの音量を調整します。
⑦ ゆがみ補正ボタン 	「8点補正」画面を表示して、映像の形状を補正します。
⑧ ブランクボタン 	映像を一時的に遮断します。
⑨ プロジェクター設定ボタン 	メニュー画面を表示/終了します。投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

名称	働き
⑩ ホームボタン 	Android TV™のホーム画面を表示します。
⑪ Google Searchボタン 	音声操作を行います。ボタンを押すと、リモコンのマイクで音声を認識します。
⑫ 【決定】ボタン 	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⑬ 入力検出ボタン 	入力ソースの一覧を表示します。
⑭ Appsボタン 	Android TV™のアプリ一覧を表示します。
⑮ 電源ボタン 	本機の電源をオン/オフします。
⑯ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.40](#)
- ・「8点補正を使用して映像のゆがみを補正する」 [p.25](#)
- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.23](#)
- ・「音量ボタンで音量を調整する」 [p.35](#)
- ・「映像を一時的に遮断する」 [p.42](#)
- ・「プロジェクター設定を操作する」 [p.48](#)

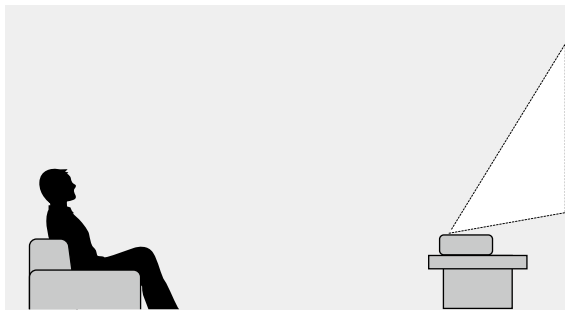
プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

▶ 関連項目

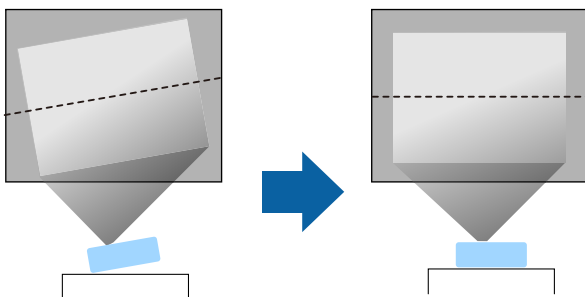
- ・「プロジェクターの設置」 [p.14](#)
- ・「プロジェクターを接続する」 [p.16](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.18](#)
- ・「Android TV™を設定する」 [p.20](#)

本機はリビングテーブルや低めの棚などに設置してください。

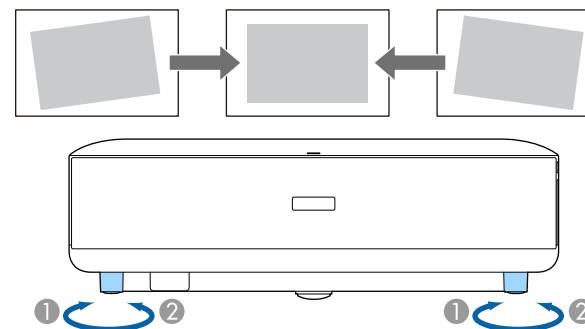


設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

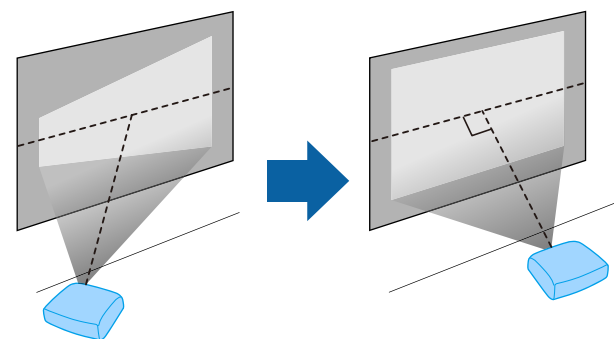
- ・ プロジェクターは水平で安定した場所に置きます。



- ・ 映像が傾いているときは、フロントフットを回して左右の高さを調整します。



- ・ 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- ・ 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



投写面に対して平行に設置できないときは、「8点補正」機能を使って映像を補正します。投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

⚠ 警告

- ・ 湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ・ 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ・ ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- ・ 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- ・ 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- ・ 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

注意

本機を標高1500 m以上の場所を使用するときは、[高地モード]を[オン]にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。

☛ [設定] > [高地モード]

▶ 関連項目

- ・ 「設置時のご注意」 [p.15](#)
- ・ 「映像の形状を補正する」 [p.25](#)
- ・ 「ピントを調整する」 [p.26](#)

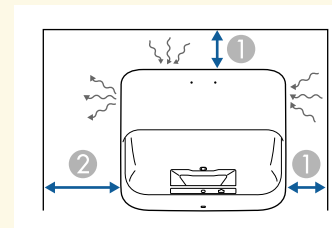
設置時のご注意

設置の際には以下の点にご注意ください。

設置スペース

注意

吸気口・排気口をふさがないように、本機の周辺には以下のスペースを確保してください。



① 10 cm

② 30 cm

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネク터를無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。

関連項目

- ・「ビデオ機器を接続する」 [p.16](#)
- ・「外部オーディオ機器を接続する」 [p.16](#)
- ・「ARC対応AVアンプを接続する」 [p.17](#)

ビデオ機器を接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器があれば、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

注意

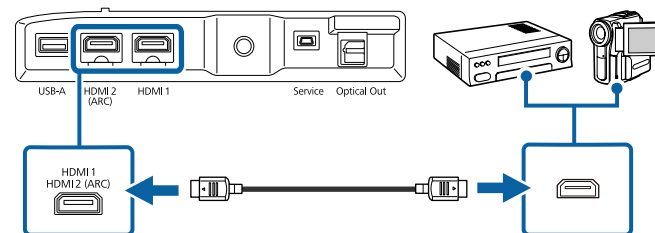
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



- ・接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- ・ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。

- 1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

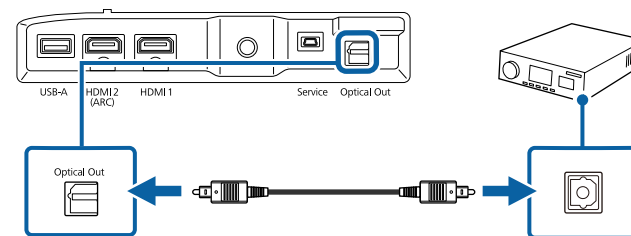
- 2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



外部オーディオ機器を接続する

お使いのアンプやスピーカーに光デジタル音声入力端子があるときは、市販の光デジタルケーブルを使ってこれらの機器に音声を出力できます。

- 1 オーディオ機器の光デジタル音声入力端子に、光デジタルケーブルを接続します。
- 2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のOptical Out端子に接続します。

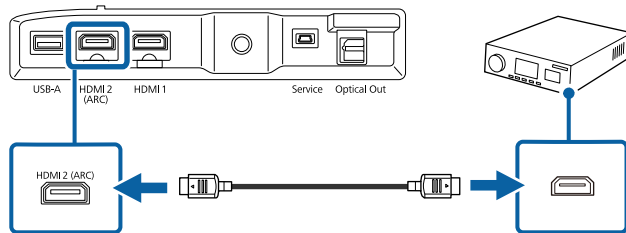


高品質の音声を出力するときは、[サウンド]メニューの[音声出力形式]を[オート]に設定します。

ARC対応AVアンプを接続する

HDMI端子を搭載したアンプを使用しているときは、HDMIケーブル（ARC対応）を使って、アンプに音声を出力できます。

- 1** アンプのHDMI出力端子（ARC対応）にHDMIケーブルを接続します。
- 2** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。



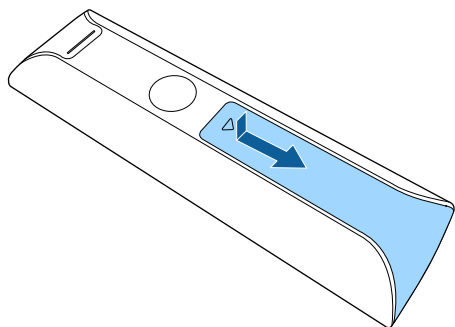
- HDMI2 (ARC)端子から音声を出力するときは、[HDMI2 ARC]を[オン]に、[音声出力先]を[ARC]に設定します。
 - 🔊 [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール] > [HDMI2 ARC]
 - 🔊 [サウンド] > [音声出力先]
- HDMI2 (ARC)端子から音声を出力するときは、入力ソースによって音声の出力形式が異なります。
 - 入力ソースが[HDMI]のとき：音声は最大5.1ch（AC-3、またはDTS）で出力されます。
 - Android TVのコンテンツを再生するとき：音声は2ch（PCM）で出力されます。

本機に付属の単4形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

1 電池カバーを外します。

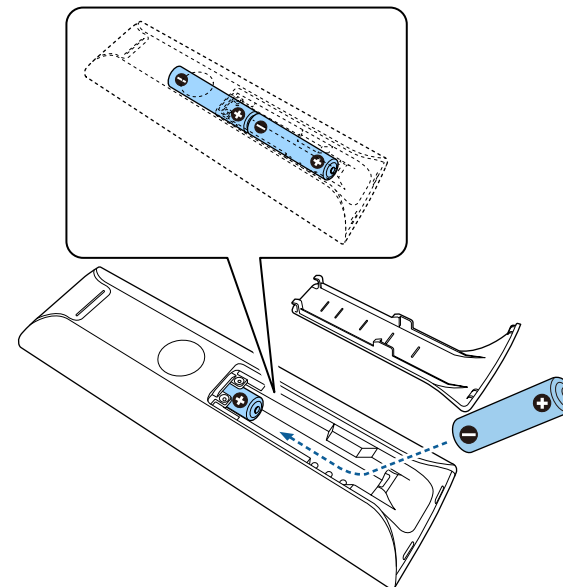


2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

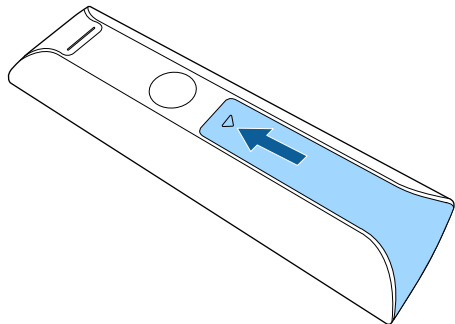
3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 4** 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが操作に反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

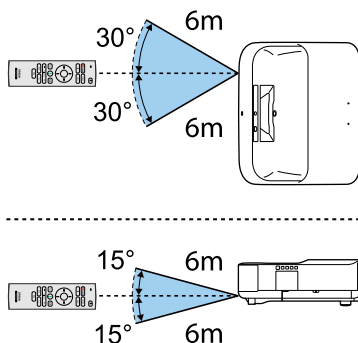
関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.19](#)

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを制御できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用することをお勧めします。



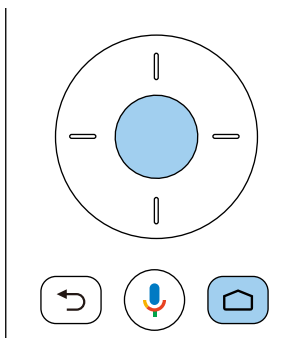
最初に本機の電源を入れたときには、Android TV™の初期設定が必要です。



初期設定が完了した後も、設定はいつでも変更できます。
Android TV™のホーム画面右上の⚙️を選択して、設定を変更してください。

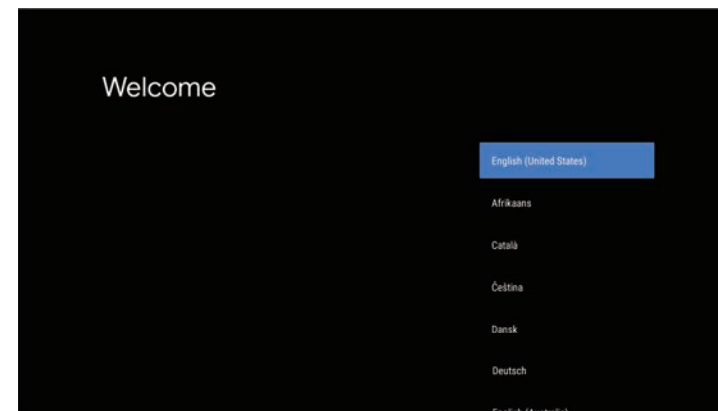
1 本機の電源を入れます。

2 ペアリング画面が表示されたら、【決定】ボタンと⏏️ボタンを同時に長押しして、本機とリモコンをペアリングしてください。



ペアリングが始まると、リモコンのインジケータが点滅します。終了すると、インジケータは消灯します。

3 言語選択画面が表示されたら、使用したい言語を選択します。



4 Wi-Fi設定画面が表示されたら、接続する無線LANを選択します。画面の指示に従って必要な設定をします。

- ・オンラインコンテンツを視聴するには、インターネット接続が必要です。Wi-Fiが使用できることを確認してください。
- ・アプリのダウンロードやオンラインコンテンツを視聴する際の通信料はお客様の負担となります。

5 ログイン画面が表示されたら、Googleアカウントでログインします。

- ・Googleアカウントでログインすると、Google Playからさまざまな人気アプリやゲームをダウンロードできます。
- ・Googleアカウントは、お使いのコンピューターやスマートフォンからも作成できます。

初期設定が完了すると、ホーム画面が表示されます。

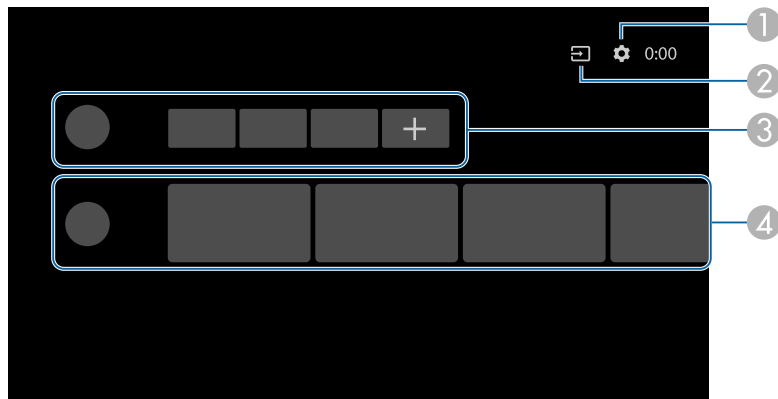
▶ 関連項目

- ・「Android TV™ホーム画面」 [p.21](#)

Android TV™ホーム画面

本機の電源を入れたときや、 ボタンを押したときには、Android TV™のホーム画面が表示されます。

ホーム画面を使うと、オンラインコンテンツ、アプリ、プロジェクター設定などを簡単に選択できます。



- ① Android TV™の「設定」メニューを表示します。Wi-Fi設定、言語設定、Googleアカウントの情報などを変更できます。
- ② 入力ソースの一覧を表示します。
- ③ ダウンロードしたAndroid TV™のアプリを表示します。+アイコンでアプリを追加できます。
- ④ おすすめのオンラインコンテンツを表示します。



ホーム画面の内容は、Android TV™のバージョンによって異なります。

プロジェクターの基本機能を使用する

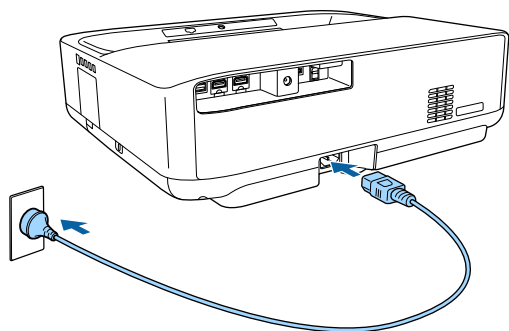
本機の基本機能を説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.23](#)
- ・「プロジェクターの電源を切る」 [p.24](#)
- ・「映像の形状を補正する」 [p.25](#)
- ・「ピントを調整する」 [p.26](#)
- ・「投写映像を切り替える」 [p.27](#)
- ・「映像のアスペクト比を設定する」 [p.28](#)
- ・「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.30](#)
- ・「映像の光量を調整する」 [p.32](#)
- ・「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.33](#)
- ・「光源の明るさを設定する」 [p.34](#)
- ・「音量ボタンで音量を調整する」 [p.35](#)
- ・「サウンドを調整する（サウンドモード）」 [p.36](#)

本機にビデオ機器を接続するときは、本機の電源を入れてから、ビデオ機器の電源を入れます。

1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

2 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して本機の電源を入れます。

ステータスインジケータが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケータが青色に点灯します。

最初に本機の電源を入れたときは、リモコンのペアリング画面と初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って、設定してください。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。



標高1,500 m以上の場所でお使いのときは、[高地モード]を[オン]に設定します。

☞ [設定] > [高地モード]

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.54](#)

使用後にプロジェクターの電源を切ります。



- ・本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にもなって低下します。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押します。
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。
- 2** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。



- ・[電源ボタン設定]を[サスペンド]に設定すると、電源を切っても最小限の電力で動作を継続します。次回電源を入れたときに、本機の起動が早くなります。
 - ・[電源ボタン設定]を[サスペンド]に設定すると、操作パネルやリモコンのどのボタンでも本機を起動できます。
- ☞ [設定] > [電源ボタン設定]

» 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.54](#)

スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

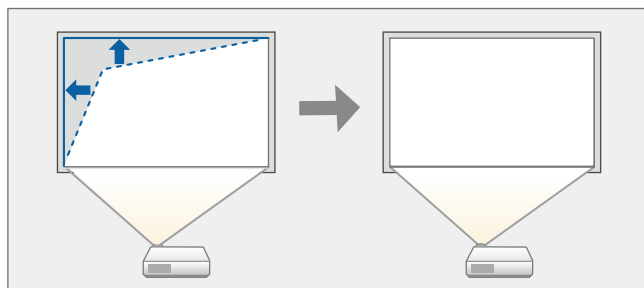
投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

▶ 関連項目

- ・「8点補正を使用して映像のゆがみを補正する」 [p.25](#)

8点補正を使用して映像のゆがみを補正する

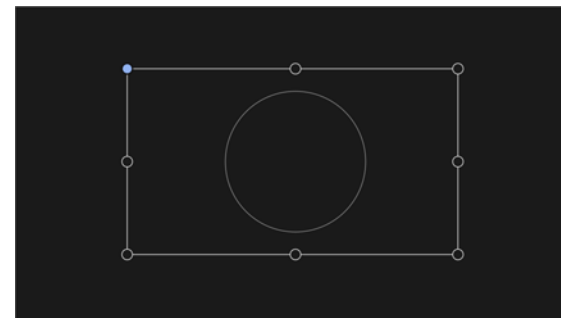
「8点補正」機能を使用して、映像のゆがみとサイズを補正します。



1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。
「8点補正」画面が表示されます。

3 上下左右ボタンを押して補正するポイントを選択し、【決定】ボタンを押します。



4 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。

 ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

 画面上のグレーで示される方向にはこれ以上調整できません。

5 手順3と4を繰り返して、調整が必要なすべてのポイントを調整します。

 【初期化】を選択すると、補正内容が初期化されます。
 【表示】 > 【8点補正】 > 【初期化】

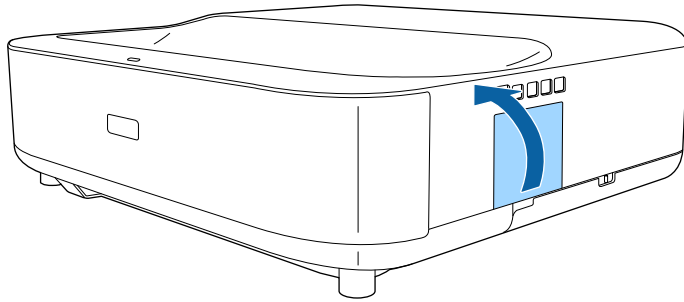
6 終了したら、 ボタンを押します。

▶ 関連項目

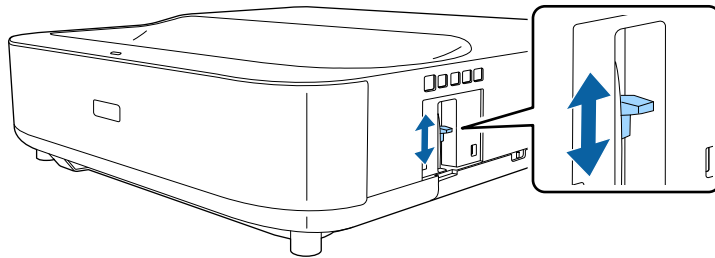
- ・「表示メニュー」 [p.53](#)

フォーカスレバーを使用して、ピントのズレを補正します。

- 1 フォーカスレバーカバーを開きます。



- 2 フォーカスレバーを動かして、ピントを合わせます。



- 3 フォーカスレバーカバーを閉じます。

コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を投写するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** リモコンの  ボタンを押します。
- 4** 上下ボタンで投写したい映像を選択します。



映像が表示されないときは、本機とビデオ機器が正しく接続されていることを確認してください。

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、[画質] メニューでアスペクト比を設定します。

▶ 関連項目

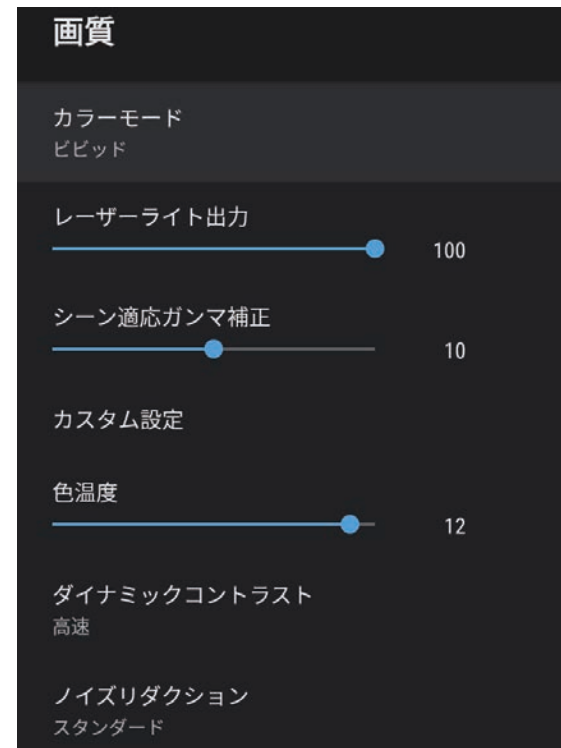
- ・「映像のアスペクト比を切り替える」 [p.28](#)
- ・「アスペクトモードの種類」 [p.29](#)

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比（縦横比）を切り替えます。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押します。

- 3** [画質] を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4** [アスペクト比] を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 5** 入力信号に合わせてアスペクト比を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。



- ・著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
ノーマル	入力信号によってアスペクト比が自動的に設定されます。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持して、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

▶ 関連項目

- ・「カラーモードを変更する」 [p.30](#)
- ・「カラーモードの種類」 [p.31](#)

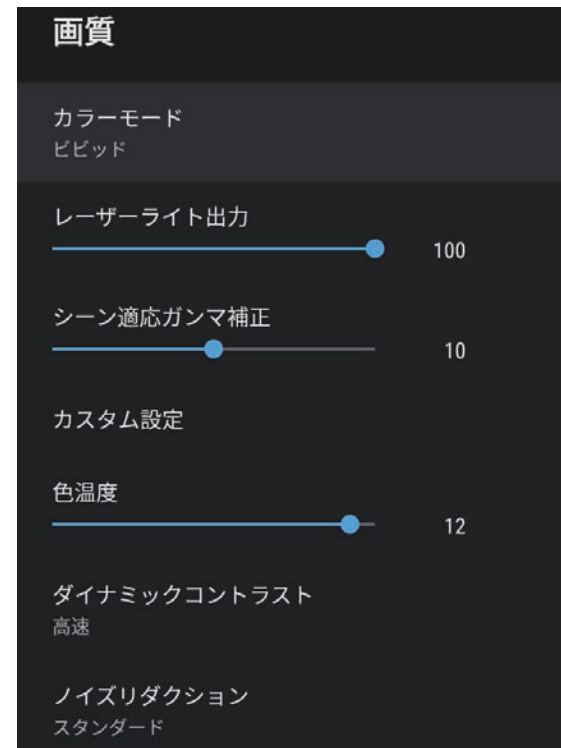
カラーモードを変更する

リモコンで「カラーモード」を変更して、映像を最適化します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 「カラーモード」を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 お好みのカラーモードを一覧から選択して、【決定】ボタンを押します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.49](#)

カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

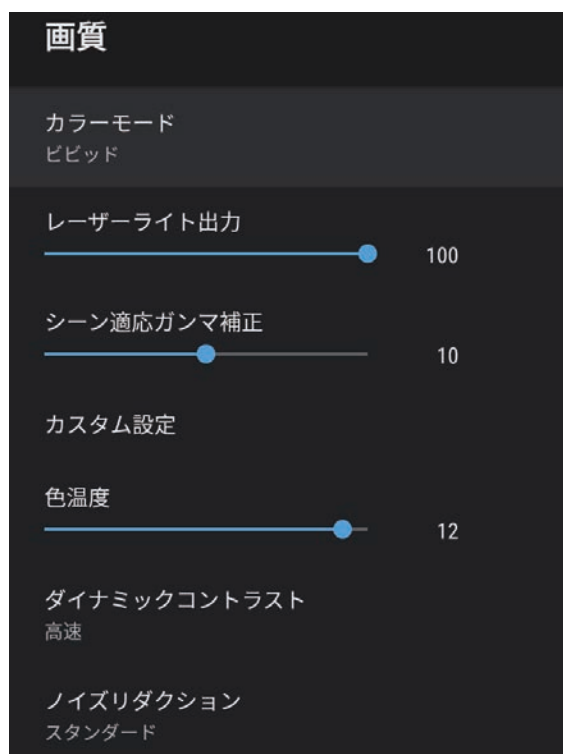
カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
ビビッド	明るい部屋でさまざまなコンテンツを楽しむ場合に適しています。
ブライトシネマ	明るい部屋で映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
シネマ	暗い部屋で映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
ナチュラル	映像の色調整を行いたい場合に適しています。

ダイナミックコントラストをオンにすると、光量を自動的に調整することで、映像の明るさに合わせてコントラストを改善します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 [画質] を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 [ダイナミックコントラスト] を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 次のいずれかを選択して、【決定】ボタンを押します。

- ・ [高速] : シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。
- ・ [ノーマル] : 標準の光量調整を行います。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

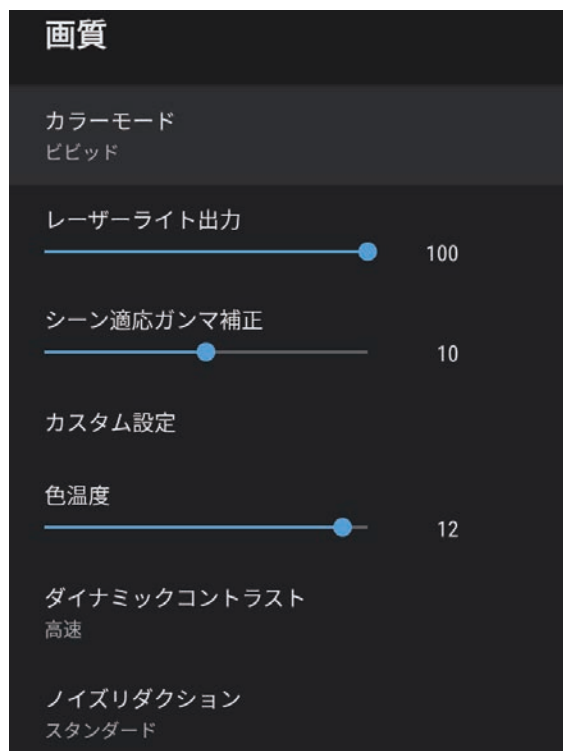
- ・ 「画質メニュー」 [p.49](#)

投写映像の品質と色合いを細かく調整できます。



シーンに応じて階調表現を最適化し、メリハリのある映像にするときは「シーン適応ガンマ補正」で映像を補正します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4 「カスタム設定」を選択して、【決定】ボタンを押します。

- 5 次のいずれかを選択します。
 - ・ 「明るさ」：映像の明るさを調整します。
 - ・ 「コントラスト」：映像の明暗の差を調整します。
 - ・ 「彩度」：映像の鮮やかさを調整します。
 - ・ 「色合い」：映像全体の色合いを調整します。
 - ・ 「シャープネス」：映像の輪郭の見え方を調整します。

- 6  ボタンを押してメニューを終了します。



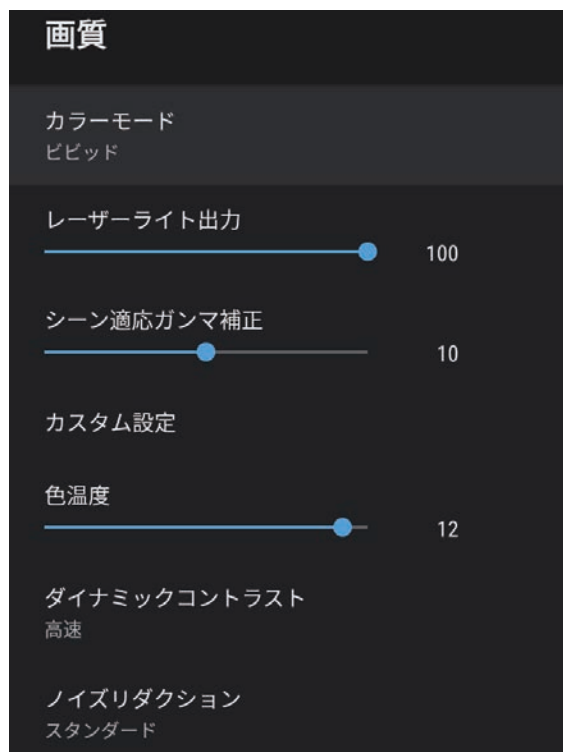
映像の青みが強すぎる、赤みが強すぎるなどのときは、「画質」メニューの「色温度」で映像全体の色合いを調整します。

▶ 関連項目

- ・ 「画質メニュー」 [p.49](#)

光源の明るさを設定します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4 「レーザーライト出力」を選択します。
- 5 左右ボタンで明るさを設定します。

- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.49](#)

音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 操作パネル、またはリモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して、音量を調整します。
音量調節画面が表示されます。

注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

本機は、お使いの投写環境に応じて、音声を最適化するためのサウンドモードを用意しています。

映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。

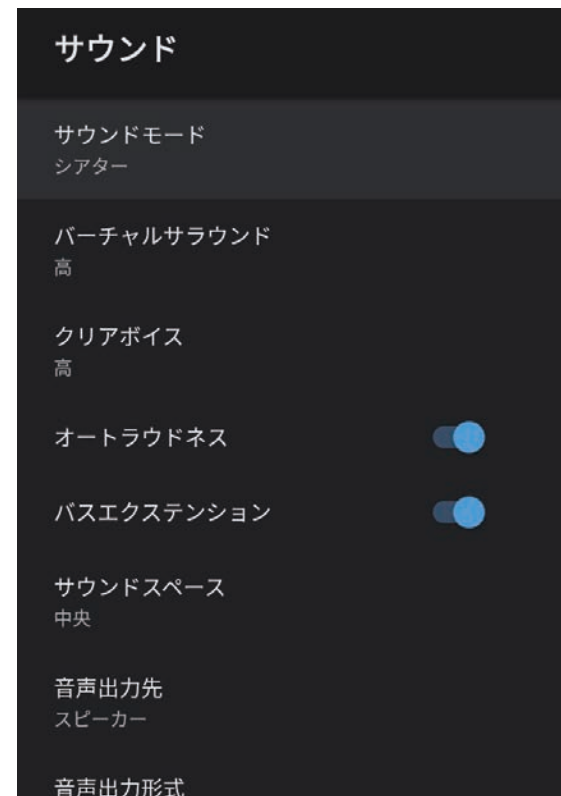


本機のスピーカーから出力される音声のみ調整できます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 [サウンド] を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 [サウンドモード] を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 お好みのサウンドモードを選択して、【決定】ボタンを押します。

6 お使いの投写環境に応じて、サラウンドなどの詳細を設定します。

7  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「サウンドモードの種類」 [p.37](#)
- ・「サウンドの詳細設定」 [p.37](#)
- ・「サウンドメニュー」 [p.51](#)

サウンドモードの種類

本機の［サウンド］メニューでは、以下のサウンドモードを設定できます。

サウンドモード	説明
シアター	サラウンド効果により映画館の音響環境を再現します。臨場感と迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。
テレビ	音声を聞きやすく再生します。ニュース、ドキュメンタリーなどのテレビ番組を視聴する場合に適しています。
スタジオ	幅広い周波数帯域の再生とバランスの取れた音質により、クリエイターやアーティストが意図するサウンドを再現します。
スタジアム	スタジアムや観衆の雰囲気を実際に再現して、実況音声をはっきりと再生します。臨場感のあるスポーツ観戦をお楽しみいただけます。
ライブ/コンサート	コンサート会場の広がりや残響を再現して、高揚感を演出します。
カラオケモード	コンサート会場の広がりや残響を再現するため、カラオケコンテンツを再生する場合に適しています。カラオケ用のアプリやマイクが提供する音声効果を損なわずに楽曲を再生できます。

サウンドの詳細設定

お使いの環境に合わせて、詳細なサウンドの設定ができます。

設定	説明
バーチャルサラウンド	サラウンド効果の強度を調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
クリアボイス	音声がはっきりと聞こえるように調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
オートラウドネス	小さな音量で再生する場合でも、高音と低音のバランスが崩れないように自動で補正します。
バスエクステンション	低音域の強調処理により、力強い低音を再現します。
サウンドスペース	視聴位置に適した音質に調整します。
音声出力先	音声の出力先を選択します。 ［スピーカー］：本機のスピーカーから音声を出力します。 ［ARC］：ARC対応のAVアンプから音声を出力するときに選択します。HDMIケーブルを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。

設定	説明
音声出力形式	外部のオーディオ機器に音声出力するときの出力形式を選択します。 〔PCM〕：PCM（2ch）で出力します。 〔オート〕：高品質の音声出力するときを選択します。本機は以下の音声コーデックに対応しています。 • PCM（2ch） • AC-3（最大 5.1ch） • DTS（最大 5.1ch）  • 音声が正しく出力されないときは〔PCM〕を選択してください。 • HDMI2 (ARC)端子から音声出力するときは、入力ソースによって音声の出力形式が異なります。 • 入力ソースが〔HDMI〕のとき：音声は最大5.1ch（AC-3、またはDTS）で出力されます。 • Android TVのコンテンツを再生するとき：音声は 2ch（PCM）で出力されます。
音声遅延制御	映像と音声のずれを補正します。音声が早いときは、値を高くします。 補正できるのは以下の音声です。 • 本機のスピーカーから出力される音声 • HDMI2 (ARC)端子から出力される音声 • Optical Out端子から出力される音声

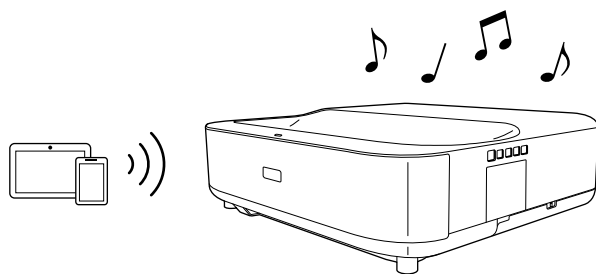
プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.40](#)
- ・「映像を一時的に遮断する」 [p.42](#)
- ・「HDMI CEC機能」 [p.43](#)
- ・「ファームウェアを更新する」 [p.45](#)
- ・「プロジェクターを初期化する」 [p.46](#)

Bluetoothで接続したオーディオ機器から、本機のスピーカーに音声を出力できます。



- 1 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して [Bluetoothスピーカーモード] に切り替えます。
[Bluetoothスピーカーモード] に切り替わると、以下のメッセージが表示されます。

Bluetoothスピーカーモード オン

- 2 接続するオーディオ機器のBluetooth機能をオンにして、機器の一覧から [Projector] を選択します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。



- ・音声のみを出力したいときは、操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して、映像を一時的に遮断することができます。
- ・Bluetooth接続を切断するときは、接続機器のメニューから切断してください。

- 3 [Bluetoothスピーカーモード] を終了するときは、  ボタンを押します。

[Bluetoothスピーカーモード] を終了すると、以下のメッセージが表示されます。

Bluetoothスピーカーモード オフ



- ・Bluetooth接続したオーディオ機器で再生される音声には遅延が生じます。
- ・Bluetoothで複数のオーディオ機器を同時に接続することはできません。
- ・Bluetooth対応のスピーカーやヘッドフォンを接続して、本機の音声をこれらの機器に出力することもできます。Android TV™のホーム画面右上の  から [デバイス設定] を選択して、ペアリングを行ってください。
- ・Bluetoothオーディオ機器は一部の国と地域では使用できません。

▶ 関連項目

- ・「Bluetooth仕様」 [p.40](#)

Bluetooth仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 5.0
対応プロファイル	A2DP、AVRCP、HID、HOGP
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402GHz - 2.480GHz)

警告

医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。



- ・機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- ・通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- ・Bluetoothの通信方式は無線LAN（IEEE802.11b/g/n）や電子レンジと同一の周波数帯（2.4GHz）を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。

本機から音声のみを出力したいときは、映像を一時的に遮断することができます。



- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押します。
光源が消灯して、映像が遮断されます。
- 2** 映像を再開するときは、再度  ボタンを押します。

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

▶ 関連項目

- ・「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.43](#)

HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する

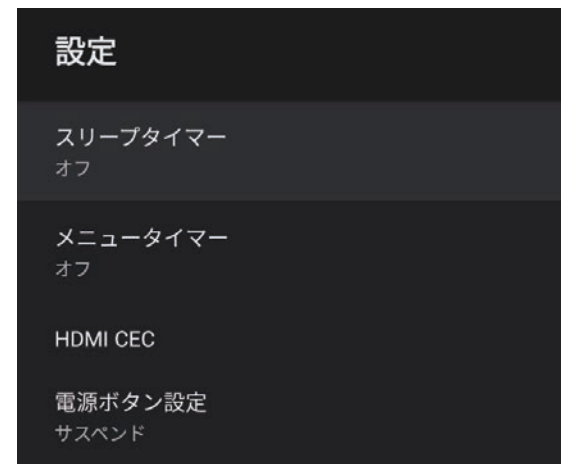
HDMI CEC機能を使って、接続したオーディオ機器を本機のリモコンで操作します。



- ・ 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

1 リモコンの  ボタンを押します。

2 [設定] を選択して、【決定】ボタンを押します。



3 [HDMI CEC] を選択して、【決定】ボタンを押します。

4 [HDMI CEC] を [オン] にします。

5 必要に応じて、以下の項目を設定します。

- ・ [自動電源調整] : 本機の電源オフに連動して、接続機器の電源を切るときは [オン] に設定します。
- ・ [自動言語変更] : 本機の言語設定に合わせて、接続機器の言語設定を切り替えるときは [オン] に設定します。
- ・ [HDMI2 ARC] : HDMI ARC対応のオーディオ機器に音声を出力するときは、[オン] に設定します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.54](#)

ネットワーク経由で、プロジェクターファームウェアを最新の状態に更新できます。



最新のプロジェクターファームウェアが利用可能な場合は、自動的に通知が表示されます。画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

- 1 リモコンの Apps ボタンを押します。
- 2 アプリの一覧から  を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 3 画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

注意

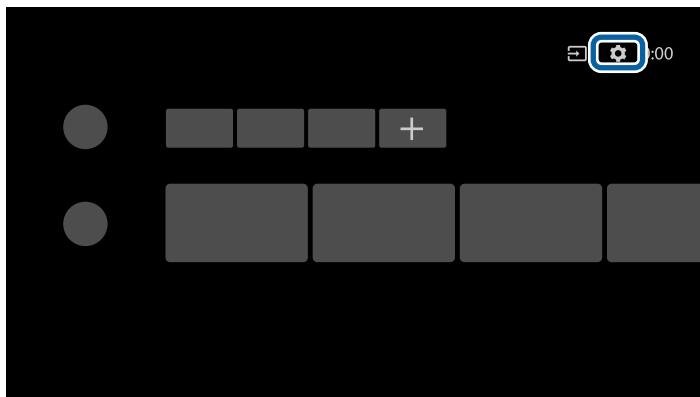
ファームウェアの更新中は、本機の電源を切らないでください。

本機のすべての設定を初期化することができます。



初期化を行うと、インストールされているアプリ、Googleアカウント情報、［プロジェクター設定］の内容などはすべて消去されます。消去したくない情報はメモしておくことをお勧めします。

- 1 リモコンの  ボタンを押します。
- 2 Android TV™ のホーム画面右上の  を選択します。



- 3 [デバイス設定] から初期化メニューを選択します。
- 4 画面の指示に従って、初期化を開始します。

メニューの操作

プロジェクターメニューの使い方と基本的な設定について説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクター設定を操作する」 [p.48](#)
- ・「画質メニュー」 [p.49](#)
- ・「サウンドメニュー」 [p.51](#)
- ・「表示メニュー」 [p.53](#)
- ・「設定メニュー」 [p.54](#)
- ・「情報表示メニュー」 [p.55](#)

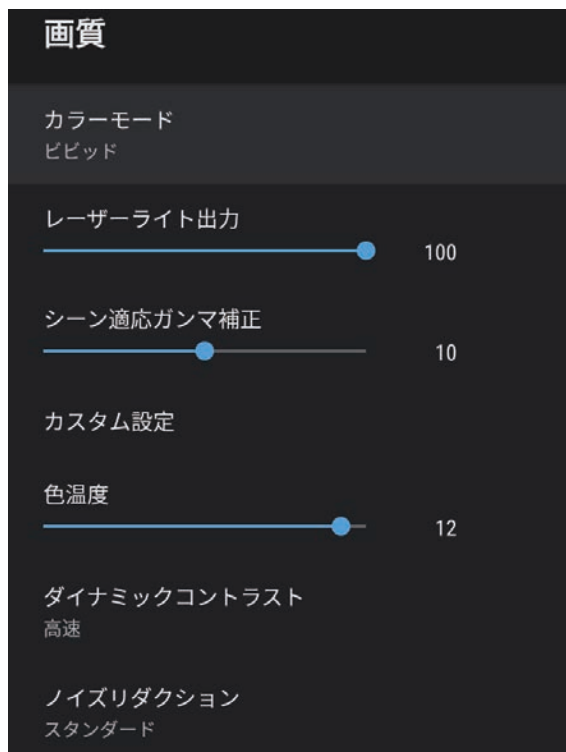
投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1 リモコンの  ボタンを押します。
[プロジェクター設定] メニューが表示されます。



- 2 上下ボタンを押して、メニュー項目を選択します。
- 3 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。
- 4 上下ボタンを押して、設定項目を選択します。
- 5 上下左右ボタンを押して、設定を変更します。
- 6 メニューの設定が終わったら、 ボタンを押します。
- 7  ボタンを押してメニューを終了します。

〔画質〕メニューでは、現在投写している入力ソースの映像の画質を調整できます。



設定	選択肢	説明
カラーモード	ダイナミック ビビッド ブライトシネマ シネマ ナチュラル	映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。
レーザーライト出力	レベル調整	カラーモードごとに、光源の明るさを設定します。

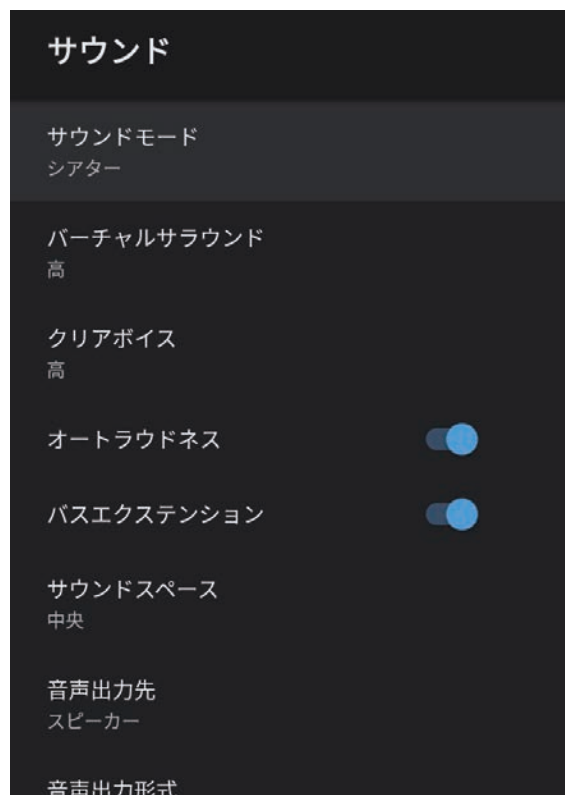
設定	選択肢	説明
シーン適応ガンマ補正	レベル調整	シーンに応じて階調表現を最適化して、メリハリのある映像にします。コントラストを強調したいときは、大きい値を選択します。
カスタム設定	明るさ	映像の明るさを調整します。
	コントラスト	映像のコントラストを調整します。
	彩度	映像の鮮やかさを調整します。
	色合い	映像の色合いを調整します。
	シャープネス	カラーモードごとに、映像の輪郭の見え方を調整します。
色温度	レベル調整	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。
ダイナミックコントラスト	高速 標準 オフ	カラーモードごとに、映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
ノイズリダクション	強 スタンダード 弱 オフ	アナログ映像のざらつきを抑えます。ノイズリダクションの強さを選択します。
ディテール強調	レベル調整	カラーモードごとに、映像のテクスチャーや質感を強調します。
アスペクト比	ノーマル フル ズーム	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。

設定	選択肢	説明
HDMIビデオレンジ	オート フル リミテッド	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。

▶ 関連項目

- ・「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.30](#)
- ・「カラーモードの種類」 [p.31](#)
- ・「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.33](#)
- ・「映像の光量を調整する」 [p.32](#)
- ・「光源の明るさを設定する」 [p.34](#)

〔サウンド〕メニューでは、プロジェクターのサウンドを最適化するための設定ができます。映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。



設定	選択肢	説明
サウンドモード	シアター テレビ スタジオ スタジアム ライブ/コンサート カラオケモード	再生するコンテンツの内容に適したサウンドモードを選択します。
バーチャルサラウンド	高 低 オフ	サラウンド効果の強度を調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
クリアボイス	高 低 オフ	音声をはっきりと聞こえるように調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
オートラウドネス	オン オフ	小さな音量で再生する場合でも、高音と低音のバランスが崩れないように自動で補正します。
バスエクステンション	オン オフ	低音域の強調処理により、力強い低音を再現します。
サウンドスペース	右 中央 左	視聴位置に適した音質に調整します。
音声出力先	スピーカー ARC	音声の出力先を選択します。 〔スピーカー〕：本機のスピーカーから音声を出力します。 〔ARC〕：ARC対応のAVアンプから音声を出力するときに選択します。 HDMIケーブルを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。

設定	選択肢	説明
音声出力形式	PCM オート	外部のオーディオ機器に音声出力するときの出力形式を選択します。 〔PCM〕：PCM（2ch）で出力します。 〔オート〕：高品質の音声出力するときを選択します。本機は以下の音声コーデックに対応しています。 ・ PCM（2ch） ・ AC-3（最大 5.1ch） ・ DTS（最大 5.1ch） 音声が入正しく出力されないときは〔PCM〕を選択してください。 HDMI2 (ARC)端子から音声出力するときは、入力ソースによって音声の出力形式が異なります。 ・ 入力ソースが〔HDMI〕のとき：音声は最大5.1ch（AC-3、またはDTS）で出力されます。 ・ Android TVのコンテンツを再生するとき：音声は 2ch（PCM）で出力されます。
音声遅延制御	レベル調整	映像と音声のずれを補正します。音声が入早いときは、値を高くします。補正できるのは以下の音声です。 ・ 本機のスピーカーから出力される音声 ・ HDMI2 (ARC)端子から出力される音声 ・ Optical Out端子から出力される音声

» 関連項目

- ・ 「サウンドを調整する（サウンドモード）」 [p.36](#)

〔表示〕メニューでは、映像の表示に関する設定ができます。

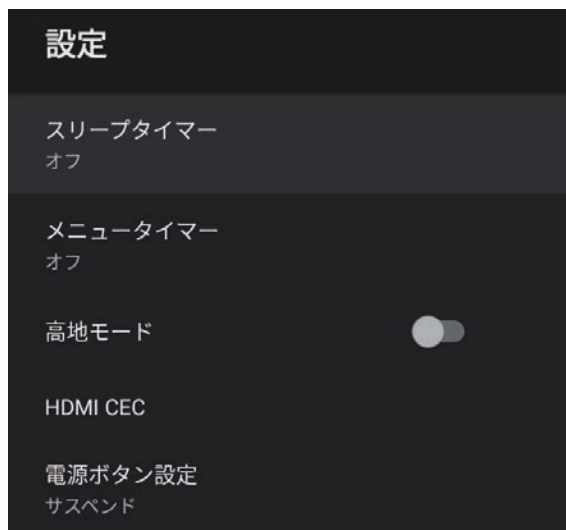


設定	選択肢	説明
8点補正	—	投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。
ズーム	—	投写映像のサイズを調整します。
デジタルピクチャーシフト	—	投写映像の位置を調整します。 〔ズーム〕で映像を縮小しているときに調整できます。
モーションセンサー	オン オフ	〔オン〕にすると、投写光に人が近づいたときに、安全のため自動的に光源の明るさを落とします。

▶ 関連項目

- ・「映像の形状を補正する」 [p.25](#)

〔設定〕メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



設定	選択肢	説明
スリープタイマー	0～120分	設定した時間が経過すると、自動的に本機の電源を切ります。
メニュータイマー	0～240秒	一定時間映像信号の入力がないときに、設定した時間が経過すると、自動的に本機のメニューを閉じます。
高地モード	オン オフ	標高約1500 m以上の場所で本機を使えるように動作を制御します。
HDMI CEC	CECコントロール	本機のHDMI端子に接続されたオーディオ機器を、本機のリモコンから操作します。

設定	選択肢	説明
		〔HDMI CEC〕：〔オン〕にすると、本機のリモコンから接続機器を操作できます。 〔オン〕にすると、接続機器の電源を入れたときや、接続機器で再生を開始したときに、自動的に本機の電源をオンにします。
		〔自動電源調整〕：〔オン〕にすると、本機の電源オフに連動して、自動的に接続機器の電源をオフにします。
		〔自動言語変更〕：〔オン〕にすると、本機の言語設定に合わせて、自動的に接続機器の言語設定を切り替えます。
		〔HDMI2 ARC〕：〔オン〕にすると、HDMI2 (ARC)端子に接続した機器のHDMI ARC機能を有効にします。
電源ボタン設定	サスペンド シャットダウン	電源ボタンを押したときの本機の動作を設定します。 〔サスペンド〕：スタンバイ状態からの起動が早くなります。 〔シャットダウン〕：スタンバイ状態での電力消費を最小限に抑えます。〔サスペンド〕よりも、本機の起動に時間がかかります。

▶ 関連項目

- ・「HDMI CEC機能」 [p.43](#)

使用許諾契約やプライバシーステートメントに関する情報を確認できます。利用状況調査に協力するかどうかを設定することもできます。



項目	説明
使用許諾契約	使用許諾契約を表示します。
プライバシーステートメント	プライバシーステートメントを表示します。
利用状況調査	エプソンがプロジェクターの操作ログを取得できるようにするかどうかを設定します。

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターのメンテナンス」 [p.57](#)
- ・「投写窓を清掃する」 [p.58](#)
- ・「センサーを清掃する」 [p.59](#)
- ・「本機を清掃する」 [p.60](#)
- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.61](#)

プロジェクターの投写窓、障害物検知センサー、モーションセンサーは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機内部の温度が上昇しないようにしてください。

お客様による交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターの投写窓は定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。ホコリや汚れを市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

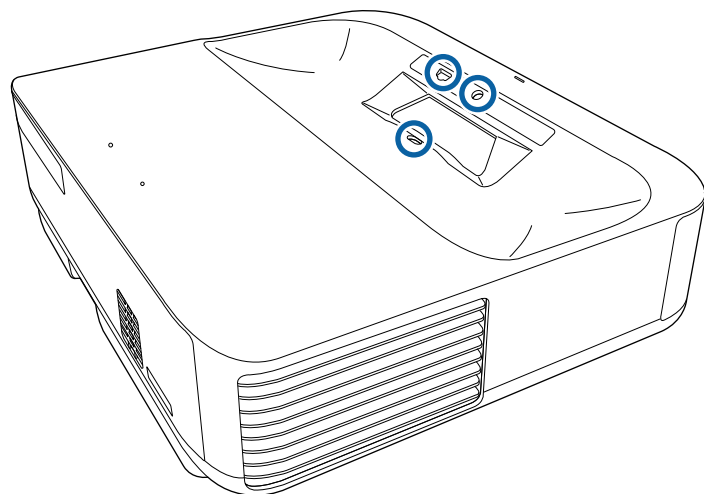
警告

投写窓に付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

投写窓の表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

障害物がないのに、投写窓付近の障害物を取り除くようメッセージが表示されるときは、障害物検知センサーとモーションセンサーを掃除してください。定期的に掃除することをお勧めします。センサーのホコリや汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。



警告

センサーに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

センサーは傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。センサーの表面に傷がつくと、誤作動の原因となります。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のホコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。エアフィルターの掃除は12,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2 mg/m3の環境下での使用を想定しています。）

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

関連項目

- ・「エアフィルターを清掃する」 [p.61](#)
- ・「エアフィルターを交換する」 [p.62](#)

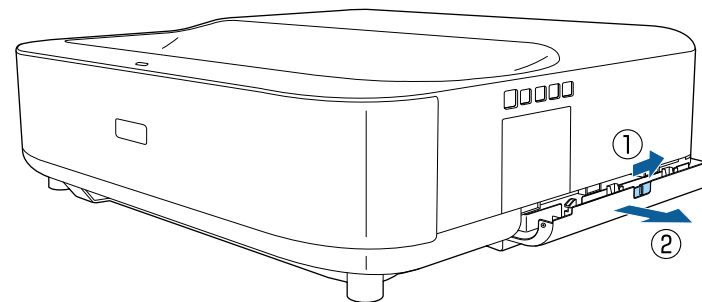
エアフィルターを清掃する

以下の場合は、エアフィルターを清掃してください。

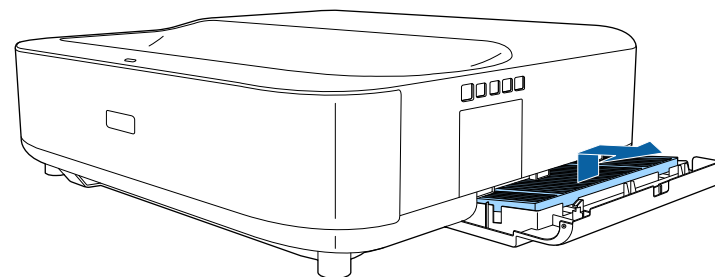
- ・エアフィルターや吸気口が汚れたとき

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

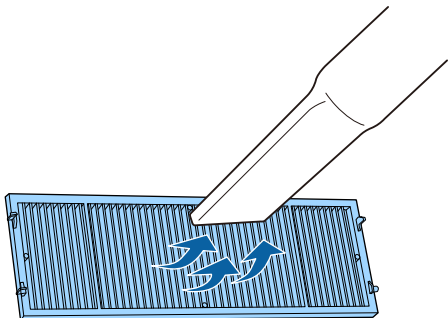
2 エアフィルターカバーのラッチを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



3 エアフィルターを取り外します。



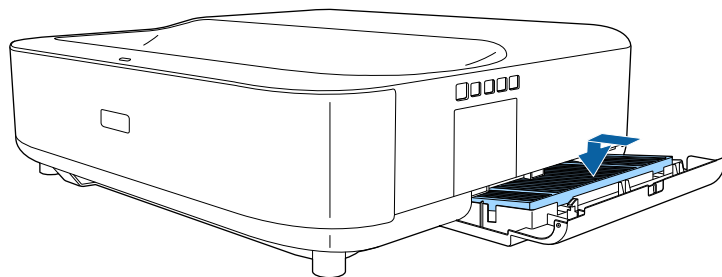
- 4** 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側（ツメのある面）から吸い取ります。



注意

- ・ エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- ・ エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

- 5** エアフィルターのツメ（4箇所）を下にしてセットします。



注意

ツメを上に向けてセットした状態で無理にカバーを閉めないでください。本機の故障の原因となります。

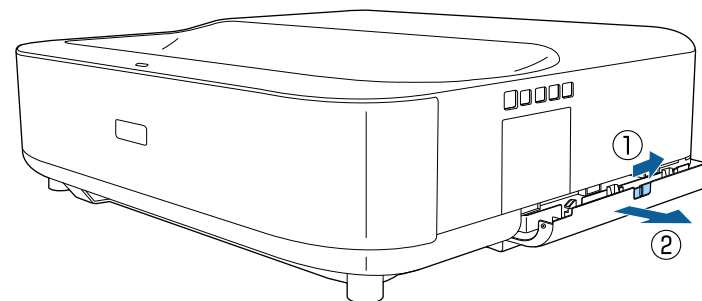
- 6** カチッと音がするまでエアフィルターカバーを閉めます。

エアフィルターを交換する

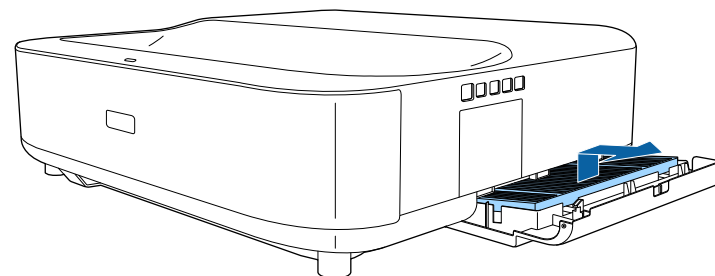
以下の場合、エアフィルターを交換してください。

- ・ エアフィルターが破損している

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。
- 2** エアフィルターカバーのラッチを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



- 3** エアフィルターを取り外します。

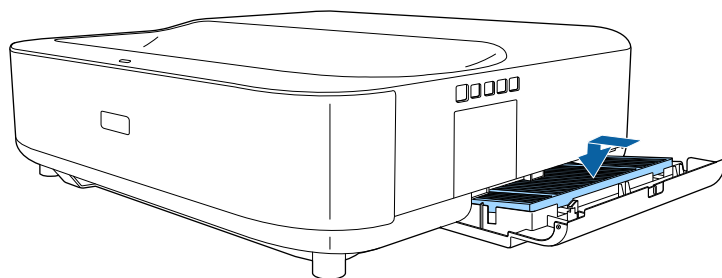




使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- ・ フィルターの枠：ポリプロピレン
- ・ フィルター：ポリプロピレン、PET

- 4** 新しいエアフィルターを、ツメ（4箇所）を下にしてセットします。



注意

ツメを上に向けてセットした状態で無理にカバーを閉めないでください。本機の故障の原因となります。

- 5** カチッと音がするまでエアフィルターカバーを閉めます。

▶ 関連項目

- ・ 「消耗品」 [p.79](#)

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

▶ 関連項目

- ・「トラブルの対処方法」 [p.65](#)
- ・「インジケーターの見方」 [p.66](#)
- ・「電源に関するトラブル」 [p.68](#)
- ・「映像に関するトラブル」 [p.69](#)
- ・「音声に関するトラブル」 [p.72](#)
- ・「リモコン操作に関するトラブル」 [p.74](#)
- ・「HDMI CECに関するトラブル」 [p.75](#)
- ・「Wi-Fiネットワークに関するトラブル」 [p.76](#)
- ・「Android TV™に関するトラブル」 [p.77](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

- ・インジケーターで本機の状態を確認する。
- ・本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

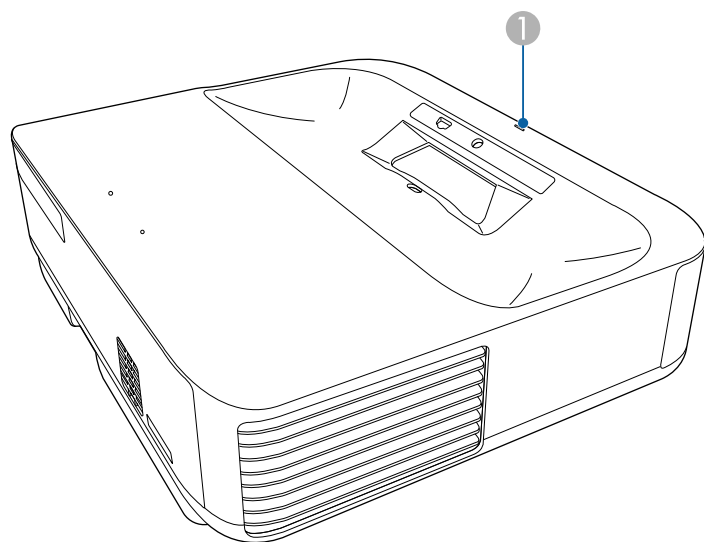


本機を修理に出された場合、初期化してお返すことがあります。各種オンラインサービスのアカウント情報を必ずお控えの上、修理をご依頼ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



① ステータスインジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの状態	状態と対処方法
青点灯	投写中の状態です。

インジケータの状態	状態と対処方法
青点滅	ウォームアップ中、シャットダウン中、または初期化中です。 青点滅中は、リモコン操作ができないことがあります。
消灯	スタンバイ状態またはスリープモードです。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。
橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 - エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 - 高温にならない環境で使用するようにします。 - エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 - 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード] を [オン] に設定します。  [設定] > [高地モード] - 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータの状態	状態と対処方法
	障害物検知警告です。 警告音が鳴り、「安全のため映像を停止しています。レンズ付近から離れる、または障害物を取り除いてください。」と表示されます。 光源の明るさが落ちます。 - 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。 - 障害物がないときは、障害物検知センサーを掃除します。 そのままにしておくと、自動的に電源がオフになります。
	モーションセンサー警告です。 警告音が鳴り、「安全のため映像を停止しています。レンズ付近から離れる、または障害物を取り除いてください。」と表示されます。 光源の明るさが落ちます。 - 投写窓付近に人がいないか確認します。投写窓から離れます。 - 投写窓付近に誰もいないときは、投写窓を掃除します。
	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
橙点滅	レーザー異常です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータの状態	状態と対処方法
	ファン異常またはセンサー異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	障害物検知エラーです。 投写窓付近に障害物がないときは、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	内部異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.54](#)
- ・「エアフィルターを清掃する」 [p.61](#)
- ・「エアフィルターを交換する」 [p.62](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「電源が入らない」 [p.68](#)
- ・「予期せず電源が切れる」 [p.68](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.23](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.18](#)

予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せず消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [設定] メニューの [スリープタイマー] で設定した時間が経過したため、本機がスリープモードになっている可能性があります。

す。操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して、スリープモードから復帰します。



スリープモードから復帰すると、[スリープタイマー] の設定は自動的に [オフ] に戻ります。

- 2** ステータスインジケーターが橙色に点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。



プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

- 3** 次の点を確認します。

- ・ 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。
- ・ 障害物がないときは、障害物検知センサーを掃除します。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.54](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「映像が表示されない」 [p.69](#)
- ・「映像がゆがむ」 [p.69](#)
- ・「映像がぼやける」 [p.70](#)
- ・「映像の一部が表示されない」 [p.70](#)
- ・「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.70](#)
- ・「映像の明るさや色合いが違う」 [p.71](#)

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

1 本機の状態を確認します。

- ・ 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
- ・ インジケーターの色と状態を確認します。
- ・ スタンバイ状態、スリープモードから復帰するには、本機の電源ボタンを押します。
☛ [設定] > [スリープタイマー]

2 ケーブルの接続を確認します。

- ・ 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
- ・ 本機とビデオ機器を直接接続してください。
- ・ HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

3 ビデオ機器の状態を確認します。

- ・ 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ ノート型コンピューターから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

4 次の点を確認します。

- ・ オンラインコンテンツを視聴する際は、インターネットへの接続が必要です。Wi-Fiサービスを利用できるか確認してください。
- ・ ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
- ・ コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）
- ・ 本機のすべての設定を初期化します。

▶ 関連項目

- ・ 「設定メニュー」 [p.54](#)

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。

2 リモコンの ボタンを押して、[8点補正] でゆがみを補正します。

▶ 関連項目

- ・「8点補正を使用して映像のゆがみを補正する」 [p.25](#)

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** フォーカスレバーで映像のピントを合わせます。
- 2** 次の点を確認します。
 - ・ 投写距離の推奨範囲内に設置します。
 - ・ 映像の高さ調整のために本機の傾斜角度を大きくすると映像がゆがみます。傾斜角度を小さくして台形補正の調整値を小さくします。
- 3** 本機の投写窓を掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- 4** 「画質」メニューで「シャープネス」を調整して、投写映像の画質を上げます。
☛ 「画質」 > 「カスタム設定」 > 「シャープネス」
- 5** コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.49](#)
- ・「ピントを調整する」 [p.26](#)

- ・「投写窓を清掃する」 [p.58](#)

映像の一部が表示されない

コンピューターの映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 「画質」メニューで「アスペクト比」が「ズーム」に設定されているときは、「ノーマル」に変更します。
- 2** コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

▶ 関連項目

- ・「表示メニュー」 [p.53](#)

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
 - ・ 干渉を受けないように、電源コードから離れている
 - ・ ケーブルの両端が確実に接続されている
 - ・ 延長ケーブルを使用していない

- 2** 映像のゆがみを補正したときは、[画質]メニューで[シャープネス]を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。

☛ [画質] > [カスタム設定] > [シャープネス]

- 3** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。

- 4** コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.49](#)

- 5** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

- 6** 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.49](#)

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎたり明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [画質]メニューの[カラーモード]で、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。

- 2** お使いのビデオ機器の設定を確認します。

- 3** [画質]メニューで、[カスタム設定]や[色温度]を入力ソースに合わせて調整します。

- 4** [画質]メニューで[HDMIビデオレンジ]を正しく設定します。

音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「音が出ない、小さい」 [p.72](#)
- ・「Bluetoothスピーカーモードでのトラブル」 [p.72](#)

音が出ない、小さい

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して音量を調整します。
- 2** 本機とビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** ビデオ機器の以下の設定を確認します。
 - ・ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
 - ・MacとプロジェクターをHDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、MacがHDMI端子からの音声出力に対応しているか確認します。
- 4** 本機のスピーカーから音声を出力するときは、以下の設定を確認します。
 - ・[サウンド] メニューで、[音声出力先] を [スピーカー] に設定します。
 - ・[サウンド] メニューで、[音声出力形式] を [PCM] に設定します。

- 5** HDMIケーブルで外部のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、以下の設定を確認します。

- ・HDMIケーブルを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。
- ・[設定] メニューで、[HDMI CEC] を [オン] に設定します。
- ・[設定] メニューで、[HDMI2 ARC] を [オン] に設定します。
- ・[サウンド] メニューで、[音声出力先] を [ARC] に設定します。
- ・[サウンド] メニューで、[音声出力形式] を [PCM] に設定します。
- ・お使いのHDMIケーブルが、HDMI ARCに対応しているか確認します。



HDMI ARC非対応の外部オーディオ機器に音声を出力するときは、[設定] メニューで [HDMI CEC] を [オフ] に設定してください。

- 6** 光デジタルケーブルで外部のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、[サウンド] メニューで [音声出力形式] を [PCM] に設定します。

▶ 関連項目

- ・「サウンドメニュー」 [p.51](#)

Bluetoothスピーカーモードでのトラブル

Bluetoothオーディオ機器を本機に接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して
[Bluetoothスピーカーモード] に切り替えます。
- 2** Bluetooth機器に表示される接続可能機器の一覧から [Projector]
を選択します。
- 3** 他のBluetooth機器が接続されていないことを確認します。
複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。
- 4** Bluetooth機器が本機のBluetooth仕様に適合しているか確認しま
す。
- 5** 次の点を確認します。
 - ・ Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認
し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
 - ・ Bluetoothオーディオ機器が離れすぎていないか確認します。
 - ・ 電子レンジ、2.4 GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や
無線機器などの近くで本機を使用しないでください。電波干渉
が発生することがあります。

» 関連項目

- ・ 「Bluetooth仕様」 [p.40](#)
- ・ 「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.40](#)

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失したときは、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 4** インジケーターの色と状態を確認します。
- 5** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。
- 6** ペアリング画面が表示される場合は、リモコンの【決定】ボタンと  ボタンを同時に約3秒間押して、再ペアリングしてください。

▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.19](#)
- ・「インジケーターの見方」 [p.66](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.18](#)

HDMI CECで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** [設定] メニューで、[HDMI CEC] を [オン] に設定します。
☛ [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール]
- 4** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。



HDMIケーブルは本機のHDMI2 (ARC)端子に接続してください。

- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

» 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.54](#)
- ・「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.43](#)

Wi-Fiネットワークに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのWi-Fiルーターやモデムが正しく動作していることを確認します。再起動すると問題が解決することがあります。
- 2** Wi-Fiルーターと本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- 3** Android TV™のホーム画面でを押し、プロジェクター設定メニューを表示して、ネットワークの設定を確認します。
- 4** 本機を初期化したときは、初期設定でネットワークを設定しなおす必要があります。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターを初期化する」 [p.46](#)

Android TV™の視聴に関するトラブルは、以下のサイトを参照してください。

<https://support.google.com/androidtv/>

付録

本機の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- ・「オプション・消耗品一覧」 [p.79](#)
- ・「スクリーンサイズと投写距離」 [p.80](#)
- ・「対応解像度」 [p.82](#)
- ・「本機仕様」 [p.83](#)
- ・「外形寸法図」 [p.84](#)
- ・「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.85](#)
- ・「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.87](#)
- ・「用語解説」 [p.88](#)
- ・「一般のご注意」 [p.89](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2023年1月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ **関連項目**

- ・「消耗品」 [p.79](#)

消耗品

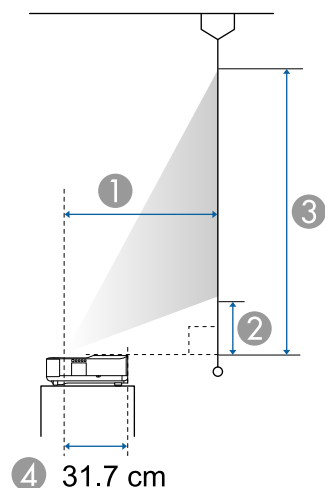
エアフィルター ELPAF60

使用済みエアフィルターと交換します。

▶ **関連項目**

- ・「エアフィルターを交換する」 [p.62](#)

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



- ① 投写距離 (cm)
- ② 本機からスクリーン下端までの長さ (cm)
- ③ 本機からスクリーン上端までの長さ (cm)
- ④ レンズ中心から本機の背面までの長さ (cm)

16:9スクリーンサイズ		①	②	③
61型	135 × 76	34.9	12.7	88.7
70型	155 × 87	40.3	15.5	102.7
75型	166 × 93	43.3	17.0	110.4
80型	177 × 100	46.3	18.6	118.2
90型	199 × 112	52.3	21.7	133.8
100型	221 × 125	58.3	24.8	149.3

16:9スクリーンサイズ		①	②	③
110型	244 × 137	64.3	27.9	164.9
120型	266 × 149	70.3	31.0	180.5

4:3スクリーンサイズ		①	②	③
50型	102 × 76	35.0	12.8	89.0
55型	112 × 84	38.7	14.7	98.5
60型	122 × 91	42.4	16.6	108.0
65型	132 × 99	46.0	18.5	117.5
70型	142 × 107	49.7	20.4	127.0
75型	152 × 114	53.4	22.3	136.6
80型	163 × 122	57.1	24.2	146.1
85型	173 × 130	60.7	26.1	155.6
90型	183 × 137	64.4	28.0	165.1
98型	199 × 149	70.3	31.0	180.4

16:10スクリーンサイズ		①	②	③
60型	129 × 81	37.2	13.9	94.7
65型	140 × 88	40.5	15.6	103.1
70型	151 × 94	43.7	17.3	111.5
75型	162 × 101	47.0	18.9	119.9
80型	172 × 108	50.2	20.6	128.3
85型	183 × 114	53.5	22.3	136.7
90型	194 × 121	56.7	24.0	145.1

16:10スクリーンサイズ		①	②	③
100型	215 × 135	63.2	27.3	162.0
111型	239 × 149	70.3	31.0	180.5

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度を示します。

HDMI端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)	色空間
VGA	60	640 × 480	RGB*
SDTV (480i/480p)	59.94	720 × 480	4:2:2/4:4:4/RGB
SDTV (576i/576p)	50	720 × 576	4:2:2/4:4:4/RGB
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280 × 720	4:2:2/4:4:4/RGB
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920 × 1080	4:2:2/4:4:4/RGB
HDTV (1080p)	23.98/24/29.97/30/50/ 59.94/60	1920 × 1080	4:2:2/4:4:4/RGB
4K (3840 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	3840 × 2160	4:2:2/4:4:4*/RGB*
	50/59.94/60		4:2:0*
4K (4096 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	4096 × 2160	4:2:2/4:4:4*/RGB*
	50/59.94/60		4:2:0*

* 8ビットのみ

以下の信号はHDR10とHLGに対応しています。

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)	色空間**
1080p (1920 × 1080)	23.98/24/29.97/30/50/ 59.94/60	1920 × 1080	4:2:2/4:4:4/RGB
4K (3840 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	3840 × 2160	4:2:2

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)	色空間**
4K (4096 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	4096 × 2160	4:2:2

** 10ビット、12ビットのみ

商品名	EH-LS300W/EH-LS300B
外形サイズ	幅467×高さ133×奥行き400 mm（突起部を含まず）
液晶パネルサイズ	0.61"
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
解像度	2,073,600 ピクセル Full HD（横1,920×縦1,080ドット）×3
フォーカス調整	手動
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大81 W
波長	449 - 461nm
光源寿命*	最大約20,000時間
音声最大出力	20 W
スピーカー	2.1ch（スピーカー2個、ウーファー1個）
電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 3.0 - 1.3 A
消費電力（100-120V エリア）	動作時：292 W
消費電力（220-240V エリア）	動作時：278 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.5 W
動作高度	標高 0～3,000 m
動作温度範囲	標高 0～2,286 m：+5～+35℃（結露しないこと） 標高 2,287～3,000 m：+5～+30℃（湿度20～80%、結露しないこと）
保存温度範囲	-10～+60℃（湿度10～90%、結露しないこと）
質量	約7.2 kg

* 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2mg/m3の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。）

▶ 関連項目

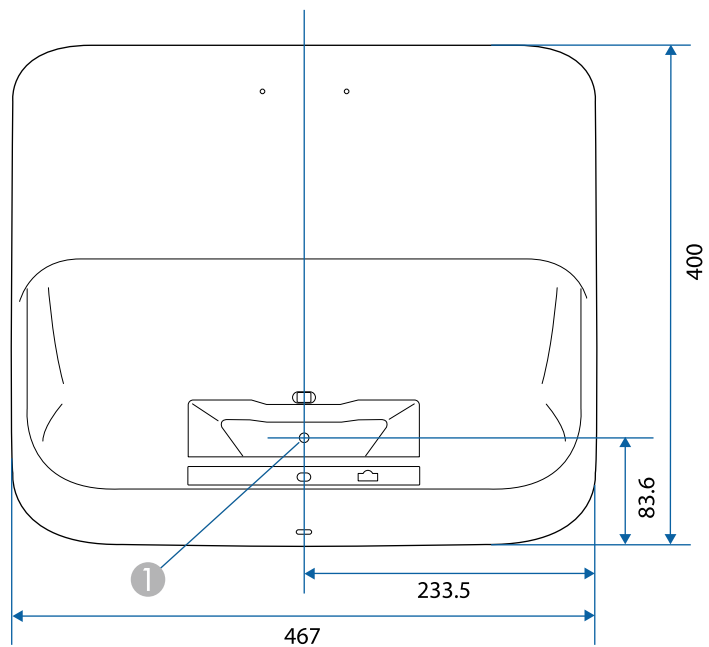
- ・「接続端子」 [p.83](#)

接続端子

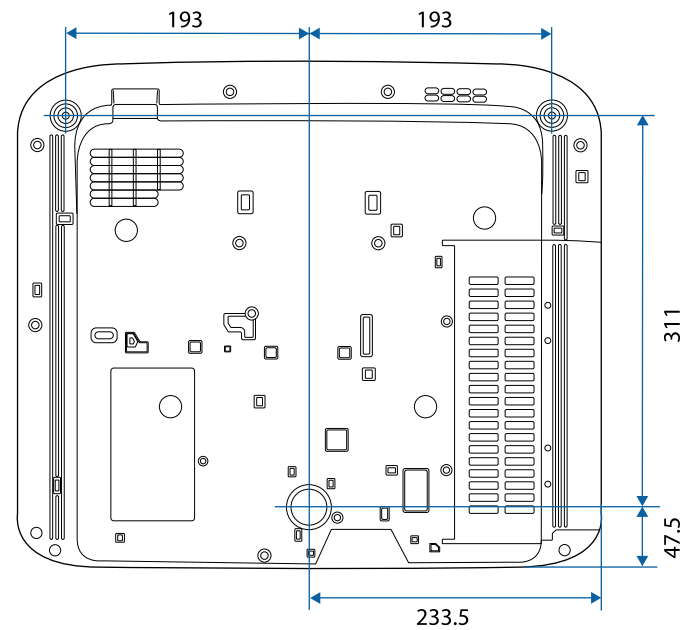
HDMI1端子	1系統	HDMI
HDMI2 (ARC)端子	1系統	HDMI
USB-A端子	1系統	USBコネクタ（Aタイプ）
Service端子	1系統	USBコネクタ（Mini-B）
Optical Out端子	1系統	光デジタル音声コネクタ（S/PDIF）



USB端子はUSB対応機器すべての動作を保証するものではありません。



① 投写レンズの中心



単位：mm

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスⅡ機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスⅡ機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IR など） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機はJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- ・ 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- ・ 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- ・ 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- ・ 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- ・ 「レーザー警告ラベル」 [p.87](#)

レーザー警告ラベル

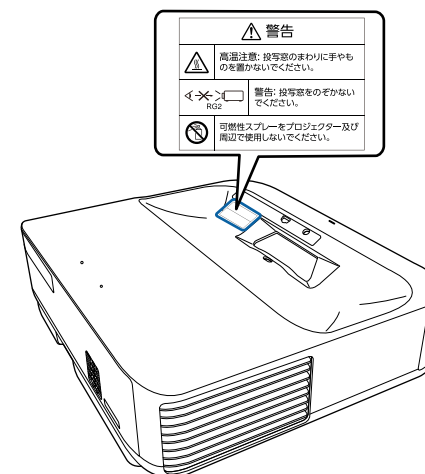
本機には以下のレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



外部

投写中は、光源から放射されるレーザービームをのぞかないでください。（RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠）



本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピュータのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのことを呼びます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピュータ向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 ・ 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） ・ 画面のアスペクト比は16:9

ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
VGA	画面サイズの規格で、横640ドット×縦480ドットのことを呼びます。
WXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット×縦800ドットのことを呼びます。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- ・「使用限定について」 [p.89](#)
- ・「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 [p.89](#)
- ・「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 [p.89](#)
- ・「JIS C 61000-3-2適合品」 [p.89](#)
- ・「商標について」 [p.89](#)
- ・「ご注意」 [p.90](#)
- ・「著作権について」 [p.90](#)

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- ・日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるた

め、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- ・電源コードは日本国内向けの電源仕様に基つき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

商標について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」およびそのロゴはセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Google、Google Play、YouTube、Android TV は Google LLC の商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、ドルビーオーディオ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標、または登録商標です。 

Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2023 Seiko Epson Corporation

2025.6 414042904JA

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因